

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 2年 3月 24日

学校法人のびる学園  
幼保連携型認定こども園  
のびる幼稚園  
園長 月野 幸子

学校評価委員会

佐藤 真音 天野 かほる 小野 孝一  
佐藤 真樹 中島 英輔 久田 由恵

## 1. 本園の教育目標

「自分で遊びを見つけられる子」

遊びは、子どもの生活の全てです。自分で遊びを見つけられる事ができたときに、子どもは初めて自己の確立の第一歩を踏み出したこととなります。一人遊びでも集団遊びでも子どもが見つけた遊びを否定せず、認める事が大切だと考えます。

「他人を思いやる心」「自然を大切に作る心」「自分を大切に思う心」は、自分で遊びを見つけられる子になる大切な3つです。そしてのびる幼稚園が大切に思っている「博愛」の大切な表れだと考えます。

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

＜今年度 学年目標＞

- 0歳児…一人ひとりの発達に応じた援助のもと、離乳の完了や歩行の完了を促し、身の回りのものへの興味・関心を広げる。
- 1歳児…一日の生活リズムを整えながら、食事・排泄・着脱など、身の回りのことを自分でしようとする
- 2歳児（満3歳児）…象徴機能や想像力を広げながら、集団活動に参加する。
- 3歳児…身近な仲間や自然等の環境と積極的にかかわり、意欲を持って活動する
- 4歳児…信頼感を深め、仲間と共に感情豊かな表現をする
- 5歳児…集団生活の中で自立的・意欲的に活動し、体験を積み重ねる

＜今年度園内研修＞

体と頭を使って遊んで学べる子

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	共有できるマニュアルの作成	A	ガイドラインの学習やそれぞれの職員がキャリアアップで持ち帰った資料により学習し、防災・避難計画・事故発生時の対応・保健衛生・園外保育安全・誤飲防止の園のマニュアルを作成しました。次年度は1つ1つ確認研究をして対応していき、修正すべき点は、直して行きます。
2	教職員間のコミュニケーションの円滑と環境作り	C	学年・全体で話し合っ、言葉での注意だけでなく一緒に行動して、互いに準備の進め方や子どもの援助に対しての意見や互いの思いを理解できるように努めた。言葉での発信が強くないよう、冷静に落ち着いて、優しく理解できる言葉で接触する。日頃から、仕事以外の話題も共有しながら互いの事を理解することに気付き、なるべく実行に努めた。

3	園内研修に取り組む。 「体と頭を使って遊んで学べる子」	B	<p>子どもの遊びを丁寧に観察しステップアップ出来るよう、道具や玩具、廃材を準備することが大切だと改めて思い、子ども達が遊びを進める上で必要不可欠なものの準備をもって、子ども自身が考え、工夫出来る環境を課題として、次年度進めて行く。</p> <p>課題保育でも、子どもの発想や行動・言葉での表現を大切ににあたため、保育教諭の用意されたものに限らずに、子ども自身の課題となって、活動を楽しめるように工夫することがわかった。</p> <p>3学期は、大きな行事オペレッタの中で役になりきって、自分なりの表現で友達と協力・共有し楽しんでいる姿があった。その中で、自分たちで考え、工夫することやルールを作っていくことで公平感を知る結果となった。</p> <p>課題活動を少なくして、好きな遊びに取り組める時間を確保した。</p>
---	--------------------------------	---	--

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが夢中になって遊べるのが園生活の基本的な環境として安全、衛生等の多方面から観察・考察し、遊具や園庭の危険な部分を改善したり、取り除いたり、また、マニュアル化して職員全員で研修した。次年度へのつなげ、更なる確認、共有の研修へと課題ができた。</li> <li>子どもの生活は大人がモデルになることより職員間の言葉の伝え方や笑顔が大切であることを改めて感じ進めてきました。それが良きコミュニケーションにつながることを確信して、子ども達にも広げていきたい。</li> <li>園内研修の中で、子どもの工夫や表現、考えを大切にする保育やマンネリになっている遊びやアイデアをそのままにせず改善し、自分で遊びを見つけ、発信し、刺激し合える人的環境である保育教諭のあり様、物的環境の考察をし実現して行きたいと考えられるようになった。</li> </ul>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

#### 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	マニュアルの確認研修	ガイドラインを基に園独自のマニュアルを制作し直し、職員間で共有し統一する。
2	教師間の連携	職員間のコミュニケーションを円滑にし、やりがい・幸せを感じつつ、協力し保育に向かえるような環境作りを心掛ける。
3	園内研修	園内研修の「体と頭を使って遊んで学べる子」の標題を定め、課題をいくつか見つけて次年度に生かす。
4	火災訓練	月1回の火災訓練を予定し実施しているが、記録に不備があったので、しっかり記録し、色々な時間や保育現場を想定し訓練を行う。

## 6.学校関係者評価委員会の評価

- 園全体が生き生きしていると思います。先生方の努力・熱心さが伝わってきます。環境が素晴らしく、子ども達は幸せです。保育教諭の目が行き届いています。
- 教師間のコミュニケーションについては難しいことですが、お互いに仕事のフォローをすることも必要でしょう。教師は人の話をじっくり聞ける教師でありたいと思います。教師の能力差がある中で、いかに高めていくか、研修の場も大切であると思います。教師の性格を変えるのは大変ですが、人格を認め合いながら行動して欲しいですね。
- 色々な園児に関わっていて良いですね。いずれにしても、先生方の大変さが伝わってきます。よく頑張っていると思います。
- 園児の成長の様子がよくわかりました。立派に成長しています。
- 認定こども園として2年目ということなので色々大変な問題も多くなるようですが、マニュアル等もしっかり作成されていてよく努力されているように感じます。
- 職員間のコミュニケーションについても組織が大きくなってきているので人間としての質、教師としての立場等、心がなかなか通じない事、所もあるようですが、子どもの気持ちを第一に考えられてとても大切に取上げられているので、今後も焦ることなく話し合っ欲しいと思います。
- 園内、園外共に子ども同士で遊びが発展していけるようにとても良く工夫されていると思います。
- 廃材を使用したおもちゃ作りで、作ったおもちゃを使って遊び、それを通して友達や先生とコミュニケーションをとる姿が見られた。廃材を手に入れるとどういう風に使おうか考えることができ、同じものを作るにも日々レベルアップした姿を見ることが出来たのは先生方の助言があったことだと、子どもの言動から感じられた。
- 子ども達は変化に敏感で、今まで遊んでいた遊具がなくなったことを残念に思っていたが、なぜなくなったのかを理解する機会にもなり、また、鉄棒が新しくなったことで嬉しい気持ちが寂しい気持ちを上回ったようだ。
- 子どもは、大人の行動をよく見ているので、職員間のコミュニケーションでもキツイ言動に注意してもらいたい。
- 教職員間のコミュニケーションの円滑と環境作りについては、一般論として、どこの組織でも、人間関係は難しいですね。でも、一番大切な部分だと思います。特効薬は見つからないので、無理しすぎないように、出来るだけオープンに話し合える雰囲気作りに努めるしかないですね。